

第3回 新大阪駅周辺地域まちづくり検討部会 議事要旨

■日 時：令和5年12月21日（木）16:00～17:30

■場 所：大阪市役所 屋上階（P1）共通会議室

■出席者：別添の「出席者名簿」のとおり

■次 第：○開会

- ・あいさつ
- ・出席者紹介

○議事

1. 新大阪駅周辺地域のまちづくり
2. 新大阪駅周辺地域の取組
 - （1）新大阪駅周辺地域の取組状況
 - （2）新大阪駅周辺地域プロモーション検討会での検討内容
3. 新大阪駅エリアの取組
 - （1）新大阪駅エリアの取組状況
 - （2）新大阪駅エリアの民間都市開発の誘導方策検討会での検討内容
4. 十三駅エリア・淡路駅エリアのまちづくり
 - （1）まちづくりの新しい動きの概要
 - （2）十三駅エリアのまちづくり
 - （3）淡路駅エリアのまちづくり
 - （4）今後の進め方にかかる論点

○閉会

■要 旨：

○開会

部会長：森岡 大阪府副知事

本日は大変お忙しい中、多数の方に出席いただき誠にありがとうございます。開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

「大阪・関西万博」開幕まで残るところ500日を切り、478日になったと思います。前売り入場チケットの販売も開始されましたし、IRについては、本年9月に実施協定等を締結し、世界最高水準の成長型IRの早期開業に向けた取組を進めておりまして、今後、国内外からの来訪者の更なる増加が見込まれています。

また、2050年を目標とする「大阪のまちづくりランドデザイン」を昨年12月に策定し、官民連携のもと、都心部の拠点開発をはじめ、郊外のニュータウン再生など、基礎自治体の皆様とともに大阪全体のまちづくりとして推進していきたいと思っています。

なかでも、新大阪駅周辺地域については、リニア中央新幹線や北陸新幹線の全線開業に加え、淀川左岸線・なにわ筋線の整備等により、広域交通の一大ハブ拠点として生まれ変わる絶好の機会が訪れていると考えておりまして、「世界有数の広域交通ターミナルのまちづくり」を皆様と進めていきたいと考えております。

昨年12月に開催した「都市再生緊急整備協議会会議」では、協議会のもとに「まちづくり検討部会」を設置し、プロモーションや民間都市開発の推進などの具体的な検討項目について協議・調整を行うこととしたところでございます。

本日は、この間の取組として、シンポジウムなどのプロモーションに関する取組や、新大阪駅エリアのまちの将来像の具体化に向けての検討状況などについて共有させていただきたいと思っております。

加えて、十三・淡路の各エリアで進めるまちづくりの動きについて共有させていただき、今後のまちづくりの進め方について議論させていただきたいと思っております。

皆様の自由闊達なご意見・ご提案をお願いしたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局

- ・出席者紹介

真田 内閣府地方創生推進事務局参事官

都市再生緊急整備地域の制度を担当しております、内閣府地方創生推進事務局参事官の真田でございます。本日はWEBでの参加となり失礼いたしますけれども、議事に先立ちまして、一言ご挨拶を申し上げます。

新大阪駅周辺地域は昨年10月に都市再生緊急整備地域に指定をしたところでございます。その後、まちづくり検討部会、またこの部会のもとで2つの検討会が設置され、これまで様々な議論が進められてきたと承知しております。また、先月11月には、シンポジウムが開催され大変好評であったと伺っております。

関係者による様々な議論と、世の中への発信、これら2点は今後のまちづくりや投資の呼び込み、機運の醸成におきまして大変意義のあることだと感じております。

本日の会議につきましても、是非皆様方の活発な議論により、今後のまちづくりに有意義なものとなりますことを祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞ、よろしくお願いいたします。

○議題

1. 新大阪駅周辺地域のまちづくりについて
2. 新大阪駅周辺地域のプロモーションの取組
3. 新大阪駅エリアの取組

事務局

・資料説明

- 資料 1 新大阪駅周辺地域のまちづくり
- 資料 2-1 新大阪駅周辺地域の取組状況
- 資料 2-2 新大阪駅周辺地域プロモーション検討会での検討内容
- 資料 3-1 新大阪駅エリアの取組状況
- 資料 3-2 新大阪駅エリアの民間都市開発の誘導方策検討会での検討内容

部会長：森岡 大阪府副知事

議題の1から3について、ご意見ございませんでしょうか？

一同

・意見なし

4. 十三駅エリア・淡路駅エリアのまちづくり

計画調整局、阪急電鉄、水道局

・資料説明

- 資料 4 十三駅エリア・淡路駅エリアのまちづくり

部会長：森岡 大阪府副知事

資料4について、ご意見等ございましたらお願いいたします。

橋爪 大阪公立大学研究推進機構特別教授

新大阪駅エリアだけでなく、十三、淡路を含めて3地区を合わせみますと、新大阪は国土レベルの広域拠点となります。新幹線駅と関空をつなぐだけでなく、近畿圏にあって重要な交通結節点となるエリアであることが見えてきます。早い段階から3エリアあわせてプロモーションしていくことが重要と考えます。

また、(十三・淡路駅エリアは) 2031年までにエリア計画を策定するとありますが、キープロジェクトが今後、新大阪・十三・淡路それぞれに具体化します。柴島浄水場のダウンサイジングと基本計画・設計も入りますので、初期段階のエリア計画を早急に策定し、段階的に2031年に向けて計画を充実させていくといったような考え方でどうかと思いま

す。

エリア計画に向けて2点ほど考えを申し上げたいと思います。

1点目です。淡路につきましては、浄水場のダウンサイジング用地は周辺も含めて、住居系の用途地域になっております。淡路駅だけではなく崇禅寺駅や柴島駅も周辺にありますので、商業機能を含めた複合的な施設の立地を想定した場合に、都市計画においてこのエリアをどうするのかといった検討が重要だろうと思います。

もう1点は、地域の方々のご意見を尊重すべきということ。ただ今の話と関連しますが、新大阪・十三・淡路の再開発すべき各エリアのあいだの地区には住宅地が広がっております。広域の交通拠点を整備すると同時に、地域の考え方を尊重しながらエリア計画を策定すべきと考えております。

小林 京都大学経営管理大学院特任教授

やはり新駅の位置を早く決めていただかないと元気が出ないと思います。

プロモーションするにしても何をやるにしても、それがないと、民間投資を呼び込むといった際のパンチ力に欠けます。

プロモーションという言葉が出てきていますが、誰に何をやるのか見えていないのが、元気が出ないといったことにつながる。結局は投資を呼び込みたいということでしょうが、どこをやろうとしているのか、今はまだ出てきていません。

また、今日は十三・淡路エリアの話をしていただいたが、これはやはり事業をする立場からのフレーズです。柴島の話もいろいろ昔から勉強してきました。水道事業の立場から見るとダウンサイジングではあるのですが、プロモーションとしては「ダウンサイジング」という言葉は適切でしょうか。そのまま言っているだけで、言葉が華やかではない印象。検討時点はいいのかもしれないですが、プロモーション戦略を考えるときはフレーズを変えた方がよいのではと思います。

森川 名古屋大学未来社会創造機構教授

全体的には進んできたといった印象です。特に今回は十三・淡路のプロジェクトも見えてきたと思います。

3つのエリアでプロモーションしていくということで、新大阪は以前から言ってますように人工地盤とか高層ビル、高級ホテル、MICE機能といった、ピカピカ系。十三、西中島南方あたりは超庶民的なまち、淡路は今のところ住宅街ですが、今後新しい議論が出てくるのだと思います。ピカピカ系と超庶民的な面白いまちと、住宅街、ダイバーシティがあるような3つの地区をプロモーションするキャッチフレーズが必要かと思っております。例えば、そのままダイバーシティ (diversity) のSをCにする (→divercity) と良いのではないかなと思いましたが、東京のお台場がすでに使っているようなので、同じ言葉を使うわけにはいきません。同じような意味で多様性や多重性といった意味で、マルチ

プリシティ (multiplicity) という言葉がありました。このマルチプリシティのシティはそのまま「City」なのでそのまま使えるかもしれません。そういったことをつらつら考えておりました。単なるアイデアです。

多様性や多重性などを売りにキャッチコピーをつくとよいのではないかと思います。

それから、この3エリアのすぐ南に淀川があり、このエリアの呼称を「よどきた」にするとよいのではないかとというような意見も以前出しました。淀川がある強みを活かしたいなと思っています。先ほど十三の船着き場の話もあり、水運ということもありますが、昨今大阪万博で話題の空飛ぶ車やドローンなどを飛ばすのに、ちょうど川の上がよいかと思えます。そうすると、新大阪駅エリアから大阪万博のある夢洲などの埋め立て地エリアに飛んでいくといった大阪で飛ばす最初コースになっていくのではないかなと、そういった川の使い方も考えていくとよいのではないかと思います。

武市 西日本旅客鉄道株式会社常務理事地域まちづくり本部交通まちづくり戦略部長

新大阪駅エリアにつきましては、昨年、都市再生緊急整備地域に指定されて以降、エリアのまちづくりについて機運醸成の取組が着実に進められているということで、関係部署の皆様のご尽力に敬意を表したいと思っております。

新大阪につきましては、北陸新幹線の駅位置を我々も早く決めてほしいと思っております。色々な協議はございますが、それによってまちづくりが一気に盛り上がっていくと思っておりますので、そこに期待したいと思っております。

今日ご紹介がありました、十三・淡路駅エリアにつきましても、新大阪駅周辺と一体的に進むことで、まちの広がりが生まれることを期待しております。新大阪駅周辺を含め長期に渡るまちづくりではありますが、エリア全体としての将来像やプロモーションをうまくやっていくことによって、発信していく、そういったことの意義は非常に大きいのではないかと思います。

特に淡路エリアについては、おおさか東線の JR 淡路駅がございまして、2019年3月に開業して以来、今年3月にはうめきた新駅ができて、快速も停車することで利用が順調に伸びております。淡路駅周辺のポテンシャルが非常に高まっているのではないかと感じております。JR 淡路駅も含めた歩行者ネットワークを整備し、歩きたくなる回遊性の高いまちづくりを実現していくことが淡路エリアの価値向上に寄与するものだと思います。

広域交通、関西一円の移動を担う鉄道事業者として、これまで以上にいろんな役割を担いたいと思っております。

武田 東海旅客鉄道株式会社代表取締役副社長・総合企画本部長

東海道新幹線を運行する事業者にとって、新大阪駅は大変重要な駅でございます。

新大阪駅の持つ交通結節点としての機能や、周辺圏域を含めたエリアの拠点圏域としての機能を一層向上させる取組は大変意義があるものと考えています。

関西エリア全体の圏域の形成を見据えて、新大阪駅エリア、十三駅エリア、淡路駅エリアにおいて、連担した拠点形成が進められていくことの重要性は、まちづくり方針においてお示しいただいている通りだと思えます。

十三駅エリア、淡路駅エリアにおいて、それぞれ基盤整備や良好な都市開発が進められていくことは、新大阪駅周辺地域が、世界有数の広域交通ターミナルとしてグローバルな拠点機能を発揮していくために大変大きな役割を果たすと考えます。

基盤整備や都市開発は、その実現までに相応の期間を要するものであり、今後、段階的に検討が進められ、圏域全体の計画が形作られ、それが円滑かつ効果的に進められる事を期待しております。

上村 阪急電鉄株式会社専務取締役

今回、十三駅エリアと淡路駅エリアを取り上げていただけて、大変ありがたく思っております。両エリアについてエリア計画を段階的に策定していくこと、早期からプロモーションを実施していくこと、これは非常にありがたく、まずはこれを進めていきたいと思っております、大いに賛同するところです。

新大阪駅周辺につきましては、関西・日本・世界と、広域圏に繋がっていくことで、大阪の新しい拠点になっていくと思っておりますので、この地域の整備方針の中で示されていますとおり、新大阪に加えまして、十三・淡路全体を一体となって進めることが非常に重要であると考えております。

先行して都市再生緊急整備地域に指定された新大阪駅エリアに加えまして、十三や淡路のエリアにおいても拠点を置く鉄道事業者でございますので、関係者の皆様と連携したうえで、各エリアにおきましてまちづくりの展開について積極的に関与、寄与していきたいと思っております。

具体的には、先ほど説明にございましたとおり、十三駅エリアでは新駅・駅ビルの開発を中心に、周辺には社有地もございますので、それらを活用したまちづくりを進めていきます。また、淡路駅エリアでは、連続立体交差事業が出来上がりますと高架下の空間も生まれますので、柴島浄水場ダウンサイジングなどの事業とも連携しまして広域的なまちづくりを展開したいと思っております。

新大阪連絡線・なにわ筋連絡線が整備されると、新大阪と大阪の連携強化をはじめ、十三を経由した京阪神方面・関西空港方面への利便性も向上いたします。こういった意味で新大阪駅周辺地域のポテンシャルを高めるのに有効な事業と考えており、今後も関係の皆様方、事業者様、行政様、経済団体の皆様方と一緒に、ご支援もいただきながら、検討を進めてまいりたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

堀 大阪市高速電気軌道株式会社常務取締役・交通事業本部長

新大阪につきましては、各検討会、あるいは検討部会で検討を進めていただきましてありがとうございます。

大阪の北の玄関口といったこともあり、関西、日本の経済活動、観光の重要な拠点であると認識しております。

各所の取組につきましても積極的に参加するとともに、プロモーション活動等についても協力できたらと思っております。

十三・淡路エリアにつきましては、段階的に検討を進めていくということは異論ございませんので、これにつきましても協力させていただけたらと思っております。

このエリアにつきましては、多様な交通網でネットワークされるということでございますが、それぞれのまちの特色を生かした魅力の高い検討をしていくことも重要であると思っております。

現在、大阪の地域に限られますが、様々なサービスと交通を一体で提供し、生活の質を向上する、いわゆる都市型 MaaS 構想を掲げて取り組んでいるところでございます。

この地域におきましては、これまでの既存の路線バスに加えまして、現在我々が進めておりますオンデマンド交通等を絡めて、目的に応じた移動手段を提供することで、このエリア内外で、快適な移動サービスに貢献できたらと考えています。

中橋 国土交通省近畿地方整備局建政部長

先日、淡路の連続立体交差事業を（近畿地方整備）局長と一緒に見に行きました。改めて大変ポテンシャルが高いエリアであると実感した次第です。十三におきましても都市開発が進んでおりますし、大変ポテンシャルが高いエリアだと思っております。

エリア計画のバージョン 1.0 でどのレベルまで記載されるのかわからないところがありますが、いずれにしても投資を呼び込んだり、住民の理解を促進するといった観点でも、早めにプラットフォームの形成や計画を作って将来の方向性を示すことは非常に重要であると思います。できればそれがさらにビジュアル的にわかるような、ビジョンまで示せばなお理想的だと思いますが、初期段階でどこまで行けるかわからないので、そのあたりは今後議論していただければよいと思います。いずれにしましても、幅広く理解してもらえるようなものを作っていく必要があると思いますので、今回のご提案には私としては賛同したいと思っております。

まちづくりはもともと時間を要するものではありますので、常に計画のアップデートしていく必要があると思いますので、段階的に内容を充実化させていくといった進め方でよいのではないかと思います。

小野 国土交通省近畿運輸局交通政策部長

駅からのデマンド交通の話が出ておりましたが、運輸局としましても駅を中心とした

再開発、鉄道間の乗り換えも重要ではありますが、そこから先バスやタクシーとの接続をどうするのかや、シェアサイクルですとか、そういった交通全体についても考えていただく必要があるのかなと思っております。

淡路・十三共に現在は駅にそういった機能はございません。十三駅も少し道路に出るとバス停がありますが、再開発を行うのであればバス停の位置がそのままでよいのか、そういった話も出てこようかと思えます。

一体の都市機能が見えてきたらといった部分もあるかと思えますので、(エリア計画のバージョン 1.0 にどこまで盛り込めるかという点、その次の段階かもしれませんが、駅だけでなくもう少し交通全体、歩行者空間、自転車、バス・タクシー等まで幅広く考えていただければと思います。

関 公益社団法人関西経済連合会専務理事

本日示された十三・淡路のエリア計画の早期策定には同意させていただきたいと思えます。

淡路エリアにつきましては、阪急高架下開発のみならず、周辺 4 駅や、新大阪駅エリアの整備とも相乗効果が生まれるような利活用の検討を要望したいと思います。

新大阪については、新たな国土形成計画におきまして、日本中央回廊の西の拠点として役割が求められているところでございます。新大阪駅は将来的には北陸新幹線やリニア中央新幹線が結節し、各地へ繋がるネットワークのハブ機能といった役割が期待されております。北陸新幹線につきましては、来年 3 月に敦賀まで開業ということで、まだ新大阪までは着工いただけていないのですが、現在、本来であれば着工後に行われるような調査も予算を組んで国の方で進めていただいているところで、力強く思っております。来年度に向けてもそういった予算要求が見込まれると承知しております。

リニア中央新幹線については、静岡の問題もあり、2027 年以降の名古屋開通と、遅れが生じているのは残念に思っておりますが、今月、名古屋・大阪間のアセスメントに着手されたとのことで、大変心強く思っております。

着々と北陸新幹線・リニアともに進んでいると感じており、関係方面と力を合わせて一刻も早い大阪への開通を求めたいと思っております。

その関係で、資料 1 の今後のスケジュールに 2040 年頃に北陸新幹線・リニア新幹線完成とありますが、我々としては 1 日も早く完成をお願いしております、できれば見直していただければと思っております。

事務局

関西をあげての新幹線整備への期待はご指摘のとおりだと思いますので、表現については見直しを図りたいと思えます。今後その点を踏まえて我々も取り組みたいと思えます。

近藤 大阪商工会議所常務理事・事務局長

十三、淡路のエリア計画を段階的にとりまとめることにつきましては異議ございません。よろしくお願いいたします。

新大阪、十三、淡路の各エリアの個性を活かしながら、有機的に連携した魅力的な広域拠点の形成をめざし、官民連携でまちづくりを進めていただければと考えております。

今後、それぞれのプロジェクトを円滑に推進していくためには、区民だよりやホームページなどで積極的に情報を公開して、機運の醸成を図るとともに、地元関係者や住民の声を取り入れることも重要となろうかと考えております。大阪商工会議所といたしましても、商工業者に向けた情報発信に努めてまいりたいと思っております。

資料4の3ページ、右下の進行中プロジェクトに掲載されております、淀川河川敷十三エリア、これにつきましてかつて提言を行ったことがございます。淀川河川敷は都会の中で豊かな自然を感じられる数少ない場所でございます。淀川を水都大阪の新たな観光拠点にできればと考えたものです。淀川河川敷の活用に向けた実証事業として行いました「淀川アーバンキャンプ」も今やご関係者の皆様のおかげで、より多彩なプログラム「淀川アーバンフロント」として実施いただいております。十三・淡路エリアの魅力を観光資源として活用・発信することにより来訪者の周遊を促進いただき、ひいては大阪の魅力向上が図られるものと期待しております。

岡本 大阪市淀川区長

淀川区役所では、十三エリアにおきまして、もと淀川区役所跡地の活用事業や、淀川河川敷でのにぎわいづくり事業に取り組んでいるところでございます。

この十三駅エリアと新大阪駅エリアを直接結びます新大阪連絡線が完成をいたしますと、これまで新大阪駅から大阪市内中心部に流れていた人の流れに十三エリアへの流れが新たに加わるといったことになりまして、利便性、回遊性がさらに高まり、淀川区はもちろんのこと大阪、関西の新たな魅力創出につながるものと考えております。

本日、十三新駅の位置の方向性、また、新駅直上のプロジェクト、都市開発プロジェクトが進められるといったことが明らかになりまして、十三駅エリアの価値が今後一層高まっていくものと大いに期待をしているところでございます。

また、十三駅エリア計画につきまして、段階的に充実をさせていただくということにつきましては都市開発の機運醸成にも非常に有効であると考えております。策定にあたりましては地元地域の意見を十分踏まえたエリア計画となりますよう、淀川区役所としましても尽力をしていきたいと考えております。

今後とも現在淀川区が進めております、魅力あるまちづくりとの連携をしっかりと進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

西山 大阪市東淀川区長

東淀川区では現在、都市再生の動きと連携しながら、新大阪駅東口のまちづくりに取り組んでいるところでございます。そんな中で今回、淡路駅周辺、特に新大阪駅と結ぶ柴島浄水場用地を活用したまちづくりの検討に着手されることは大歓迎でございます。実り多いまちづくりとなりますよう、地域と密接な関係を持っております区役所が地域の声を計画に活かせるように検討に参加してまいりたいと思っております。

さらに、両駅間を結ぶ相乗効果が高まるように、歩行者の回遊ルートに加えまして、公共交通機関等によります新大阪・淡路のつながりについてもしっかりと検討していただけたらと思っております。

また、都市計画道路、歌島豊里線もこの計画の中で完成してまいりますので、淀川区・東淀川区を繋ぐまちづくりにするよう、周辺地域との連携も検討いただけたらありがたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

真田 内閣府地方創生推進事務局参事官

都市再生緊急整備地域を指定されますと、デベロッパーのみなさんには税制上の優遇措置や都市計画上の優遇措置が適用されることとなります。今後2つのエリアにおけます都市開発事業が具体化された内容次第ではありますが、デベロッパーのみなさんに特例措置を活用いただくことも考えられると感じます。そうしますと、十三エリア・淡路エリアにつきましても新大阪駅エリアと同じように、いずれかの時期には都市再生緊急整備地域の指定をかけていくことも考えられると感じております。

もし都市再生緊急整備地域の指定をしますと、その地域の地域整備方針を作成し、決定しなければなりませんので、そういった意味でもこのまちづくりの方向性が必要でありまして、本日の議論にございましたエリア計画の策定が大事なことだと感じました。

部会長：森岡 大阪府副知事

皆様のご意見を踏まえ、高橋副市長いかがでしょうか。

高橋 大阪市副市長

2018年に都市再生緊急整備地域の候補地域として公表されてから検討をスタートし、今日資料を拝見しまして、よくここまで来たなと思っております。本当に先生方にお世話になり、また、関係する事業者の方々のお力添えに改めて感謝したいと思っております。

資料4の十三駅エリア・淡路駅エリアのまちづくりにつきましては、それぞれキープロジェクトがあり、種地もありますので、これからのまちづくりが非常に楽しみだなと感じています。

段階的にエリア計画をつくっていくことにつきましては、将来の都市再生緊急整備地域の地域整備方針につながることをめざして、まずはバージョン1.0に取り掛かってほ

しいと思っております。特に地元をよく知る区、あるいはキープロジェクトを抱えている鉄道事業者の方々に入っていただいて、計画調整局を中心にまず検討する組織体をしっかりと作ってほしいと思いますのでよろしくお願いします。

また、淡路については「ダウンサイジング」といった言葉についてのご指摘がありましたが、検討する際、用途地域が住居系のため、将来像を見据えて、適切な時期に都市計画・用途地域の変更についてもしっかりと考えていくようにお願いします。

あと、少し全体のプロモーションの話になりますが、この資料を拝見していますと、まだ広く新大阪を知ってもらうフェーズ1の段階としては良いかと思うのですが、フェーズ2になりますと、やはりデベロッパーの方、投資家に対して商品を見せていくといった視点が大事だと思います。今後はこのフェーズ2を想定して、どの商品を誰にお届けするかといった視点でしっかりとプロモーションして検討して欲しいと思います。

・意見交換まとめと今後の進め方

部会長：森岡 大阪府副知事

ただいま、高橋副市長から、十三駅エリア、淡路駅エリアについて段階的にエリア計画を作成していくこと、また、大阪市計画調整局を中心とした検討会の組成が必要との提案がありました。

他の構成員の皆様、いかがでしょうか。

一同

・異議なし

部会長：森岡 大阪府副知事

皆様の合意を確認できましたので、本まちづくり検討部会のもとに、十三、淡路それぞれのエリア計画の取りまとめに向けた検討会を設置することとします。

検討会の構成や設置時期等につきましては、本日いただいた意見も踏まえながら、計画調整局と事務局で整理のうえ、構成員の皆様にご確認いただきながら、設置に向けた手続きを進めていくようにお願いします。

○閉会

高橋 大阪市副市長

本日は、皆様から長時間にわたり貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

新大阪駅周辺地域については、民間開発の機運醸成に向けて、まずはフェーズ1のシンポジウムなどのプロモーションを進めてきております。今後も引き続き皆様と連携しながら、あらゆる機会での情報発信など、効果的な取組を展開したいと思っております。

また、新大阪駅エリアについては、森川先生からもアイデアをいただきましたが、キャ

ッチフレーズの検討やまちの将来像の具体化などにより、引き続き、民間都市開発を促進する形で検討していきたいと思っております。また、十三・淡路につきましては、新たな検討体制を構築して、将来の都市再生緊急整備地域の地域整備方針となることを見据え、バージョン 1.0 のエリア計画の作成に取り組んで欲しいと思っております。

今後、部会のもとに複数の新たな組織が設置されることとなりますため、それぞれの役割分担や関係性を明確にしたうえで相互に連携してほしいと思っております。

皆様には引き続きのご協力をよろしく申し上げます。ありがとうございました。

部会長：森岡 大阪府副知事

本日は、ご参加いただき、様々な貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

頂いた皆様のご意見等を踏まえ、新大阪・十三・淡路の3つのエリアがそれぞれの特色を活かしながら一体となって魅力の高い拠点形成されるよう、皆様とともにまちづくりを進めていきたいと考えております。

また、新幹線新駅の位置が示されれば、元気が出てまちづくりの弾みがつき、併せて駅前広場の機能向上や駅とまちをつなぐ歩行者動線など、にぎわいのある駅周辺の空間形成に向けた具体的な検討を進めていきたいと考えております。

引き続き、皆様には、新大阪のブランド力の向上に向けたプロモーションやプロジェクトの推進に向けたご協力をお願いして、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。